



全国大会への決意を述べる松本啓子選手【左】(全国障害者スポーツ大会)と、敦賀気比高校3年の藤本啓史選手(国民体育大会本大会)



音頭取りの甚句に合わせ奉納された力強い踊り



大きく実った粟の穂を刈り取る早乙女

街角スケッチ

あなたが写っていたらご連絡ください。写真を差し上げます。

広報広聴課 ☎ 22 - 8112



新潟で起こせ！敦賀旋風

9月25日 国民体育大会本大会出場選手壮行式
10月2日 全国障害者スポーツ大会出場者激励会

新潟で開催される「第64回国民体育大会本大会(9/26~10/6)」と「第9回全国障害者スポーツ大会(10/10~12)」に出場する選手を激励しようと、それぞれ壮行式(総合運動公園)と激励会(市役所)が行われました。出場者らは、河瀬市長から「全国で自分の力を発揮し、敦賀の名を広めてきてほしい」と激励を受け、大会への思いを強くしていました。



やすとこやすとこしょ！

9月20日 阿曾の相撲甚句

県の無形民俗文化財に指定されている阿曾の「相撲甚句」が、今年も同区の利根八幡神社で行われました。子ども相撲、大人相撲が行われた後、まず小中学生たちが甚句に合わせた踊りを披露。その後、しこな入りの華やかな化粧まわしをつけた男衆10人が土俵に登場しました。男衆らは、音頭取りの独特の甚句に合わせ、「やすとこやすとこしょ！」と掛け声を響かせながら、力強い踊りを奉納しました。



立派な粟が実りました

9月17日 献穀粟抜穂式

新嘗祭(宮中でその年の収穫を感謝する祭儀)に献納する粟の抜穂式が、奉耕者である米澤賢治さんの畑(御名)で行われました。敦賀では27年ぶりとなる今回の献穀粟は、5月に種がまかれ、10月下旬の宮中への献納に向けて大切に育てられてきました。この日は、米澤さんや河瀬市長、早乙女らが一斉に畑へ。米澤さんの「刈りませ！」の掛け声とともにたわわに実った粟の穂をかまで刈り取りました。

本隆寺で行われた句碑の除幕式。おくのほそ道に収録されている敦賀で詠まれた句で、唯一句碑のなかった「浪の間や小貝にまじる萩の塵」の句碑を建立



熱心に説明を聞いたり、施設を見学したりする外国籍住民の方



新しい句碑がお披露目

10月4日 「奥の細道」敦賀サミット

松尾芭蕉の「奥の細道」にゆかりのある団体が集まる『第22回「奥の細道」敦賀サミット』が、10月3・4日にニューサンピア敦賀やプラザ萬象で行われました。4日には、参加者らが市立博物館の企画展や芭蕉関連の史跡を見学。色浜の本隆寺では、敦賀俳句作家協会が建立した句碑の除幕式が行われました。また、期間中は、作家の金森敦子さんの講演会や全国俳句大会なども行われ、市内外から訪れた多くの方々が、芭蕉の旅路に思いを巡らせていました。



日本のごみ処理に興味津々

9月28日 市内在住外国籍住民が清掃センター見学

市内在住外国籍住民を対象にした、清掃センターの見学会が行われました。見学会は、外国籍住民にごみの分別やりサイクルへの意識を高めてもらおうと、市民団体「敦賀国際交流ネットワーク」が初めて企画。韓国、ウクライナ、中国籍の3人が参加し、同センター職員からの説明を受けました。洪賛基さん(韓国)は、「ごみ処理の現場は韓国でも行ったことがなく、良い体験ができた。資源ごみが人の手で分別されていてびっくりした」と話してくれました。

刈り取った稲を持って「はい、ピース！」



見て！ 私たちのお米

9月16日 田んぼの学校 稲刈り

5月の田植えから4カ月。実りの秋を迎え、田んぼの学校の稲刈りが行われました。この日は、山区の田んぼで、栗野南小と黒河小の5年生の児童123人がかまを使って稲刈りに挑戦。児童らは、山区農家の山内公衛さんの指導のもと、交代で田んぼに入り、丁寧に稲を刈っていきました。なお、今回収穫したお米(コシヒカリ)は、今後、学校のイベントなどで食べる予定です。

供養塔の前で行われた吟詠



敦賀城主をしのぶ

9月13日 大谷吉継公供養祭

敦賀城主・大谷吉継公の供養祭が永賞寺(栄新町)で行われ、大谷吉継公顕彰会の会員や市内外からの参加者ら約50人が参列し、敦賀が生んだ戦国武将をしのびました。境内の供養塔前では、参加者らが焼香を行ったほか、吟詠や居合道演武などを披露。その後、同顕彰会の丸山誠さんによる「大谷吉継 関ヶ原に死す」と題した紙芝居風の絵語りも行われ、合戦の様子などを紹介しました。